



13年目の3.11を町民の皆さんと共に学ぶ。

震災から13年目ということで、ついに今年から小学生も全員が震災後生まれとなります。そうした中で、被災自治体として震災を忘れず、震災からの教訓をしっかりと伝承するため、町では防災教育と伝承教育にこれまで以上に力を入れていきます!!!

まず一つ目の取組は、小学校における震災教育の充実です。昨年度、協働センターでは町内の震災遺構を教材として作成し、初の見学学習をコーディネートしました。今年からは、5年生が町内で津波の被害について学び、6年生が双葉町の伝承館で原発事故被害について学ぶことになりました。檜葉町の復興した様子と、刻一刻と変化する富岡や大熊、双葉など近隣自治体の様子を比較し、広い視点で震災の被害からの復興と創生について、考えられる子どもたちに育ててほしいと思います。

二つ目の取組は、防災士さんらと協働した防災ウォークです。これはぼうさいこくたい2023に福島を代表して出場した6年生が中心となり、5年生と共に実施したものです。当日は子どもたちに加え、保護者の皆さんや地域の皆さん、大学生も参加し、津之神社から避難拠点である檜葉小学校までを実際に歩きながら、途中で防災クイズや防災に関する避難活動のワークなどに挑戦しました。町では、このような町のためになることを自分たちで企画し、子どもたちがリードしていく活動を今後も推進していきます。

三つ目の取組は、3月10日に行われた「3.11・つなぐ・未来」での活動です。今年は震災により活動が中断されてしまっていた子どもによるじゃんがら念仏踊りを披露。1年間の活動の成果を地域の皆さんにも見ていただきました。また、陸前高田での学習や地域学校防災活動の取組なども小中学生が発表しました。

これからも被災自治体である檜葉町だからこそできる体験的な学びを充実させ、能登半島での地震など、県外の災害も自分事として捉えられるように育てていきたいと思っておりますので、引き続きご協力ください!



3.11・つなぐ・未来に出演した子どもたちと「風花の会」の皆さん



町の各所で防災ワークを実施 下：今年から始まった6年生の町外見学



地域のオーダーで始まったじゃんがらの継承も着実に進んでいます!!!

会津美里町との継続的な交流を推進します!!!

震災時に避難し、温かい交流が多く見られた会津美里町の方々とのつながりを次代につなぐため、今年から小学生による相互の町での宿泊体験を実施しています。2月には会津美里町に檜葉町の子どもたち25名が出向き、震災時に避難していた新鶴生涯学習センターを拠点に雪遊びや雪上運動会など様々な交流活動をしました。お昼は美里町の子と共にこねたお餅を美里町の婦人会の皆さんが調理してくださり、仲良く食事。寝食を共にすることで、仲も大いに深まったようでした。3月11日には、初めての試みとして、美里町の小学生とZOOMでつなぎ、合同で黙とうセレモニーも実施。活動を通して、美里町とのつながりをしっかり意識できたようでした。夏には美里町の子どもたちが檜葉町に遊びに来ます。こうした交流がずっと続くといいなと思います。



一緒に餅をつきあげました。

会津美里町の皆さんとも交流!!!

2日間を通して仲も深まりました。8月には檜葉町で美里の子を迎えます!!!

町民の皆さんの意見を基に子どもたちが製作中!

2月29日にブイチェーンネモトの店頭、3月10日はコミュニティセンターにて、子どもたちが地域の皆さんと協働しながら制作しているゆずジュースの試飲会を実施しました。わずかな時間ではありましたが、多くの町民の皆様に来ていただき、評価だけでなく、温かいお声掛けや応援の言葉をいただき、子どもたちのやる気も高まったようでした。誠にありがとうございました。エコバッグプロジェクトと合わせ、町民の皆さんの声を反映させた商品を子どもたちが商工会や振興公社など多くの地域団体の皆さんの協力のもと、製作中です。ぜひ完成を楽しみになさってください。



ネモトでもコミュニティセンターでもたくさんの方に試飲していただきました!!!

【地域学校協働センターからのお知らせ】

○ 協働センターの移転について

来年度、1年生が2クラスになることに合わせ、協働センターがこれまでの余裕教室から旧ランチルームへと移動することとなりました。場所は職員室から体育館に行く途中となり、玄関からの距離が長くなります。活動へのご協力や打ち合わせ、お迎えなどで地域の皆様や保護者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

【お問合せ先】 檜葉町地域学校協働センター（檜葉小学校 1階） 猿渡 ・ 星
 （直通）070 - 7421 - 5156 （教育委員会）0240 - 23 - 5515 kyoudou-n@town.naraha.lg.jp

原発事故で消えた「ばあちゃんのジュース」..味を忘れなかった孫の児童らが復活

2020.03.07 14:30 東北本報 2.3号

東京電力福島第一原発事故で避難指示の出した福島県楡葉町に、統廃計画が白紙となった楡葉ユズのジュースがあった。原発事故で消えた幼少の味、考究した農家の女性は亡くなり、レシピも残らない中、小学生らが復活させた。10日に震災の追悼・伝承イベントでお披露目される。

● 東日本大震災の追悼域、12年ぶり再開開催へ、日本家庭チームで巨大清流メカニクス総研発表

2010年秋、ユズ農家の新妻洋子さんが考えたユズジュース「ゆずの香」が、町のゆず料理コンテストで最優秀賞を受賞。翌年から町内のレストランで提供が始まることになっていた。

だが、翌年の原発事故で町民が避難を余儀なくされ、廃島化はキャンセルに、その後、避難指示が解除され、新妻さんはいわき市から帰郷したが、19年に74歳で亡くなった。

ジュースの復活に挑んだのは、地元の楡葉小学校の児童たち。社会の課題を探して解決案を考える活動を進めていた時に新妻さんの話を知り、4、5年生8人が昨年11月に活動をスタートさせた。

レシピもなく、頼りはメンバーの一人、新妻さんの孫で5年生の楢月さん（11）だった。

読売新聞の全国版でも紹介されました!